

令和6年度 第2回 鈴西小学校 学校運営協議会 実施報告書

1 日 時 令和6年7月9日(火) 10:00～11:30

2 場 所 鈴西小学校 多目的ホール

3 委員長挨拶

7月上旬になり、もう少しで1学期が終わる。暑い日が続いているので、登下校や体育の授業などが大変だと思う。事故なく無事に1学期を終えることができるよう児童の指導、支援をしてほしい。今日は、主に2学期のことを話し合う場にしていきたい。

4 学校長挨拶

本日は、暑い中お集まりいただきありがとうございます。1学期も最終盤に差し掛かったが、学校全体を見渡して大きな事故等はなく、様々な学習活動や行事を体験し成長していている様子が感じられる。直近の大きな行事としては5年生の自然教室があった。鈴鹿青少年の森が民間委託され「スズカト」と名前を変えてシステムが変わり、なかなか要領を得ない部分はあったが、担任が細やかに連絡を取り合うこととで大きなトラブルもなく無事終えることができた。この後、あゆみ渡し等が控えているが、教員も着々と準備を進めている。暑い日が続いていくことになるが、熱中症等による大きな事故なく、このまま元気に夏休みに入っていけるとよいと思っている。

5 協議事項

(1) 教育活動の状況について〔学校長より説明〕

①児童の様子(学力)

4月に、6年生が全国学力学習状況調査に取り組み、4・5年生がみえスタディ・チェックに取り組んだ。全国学力学習状況調査の結果については、7月末ごろ結果が届く予定。みえスタディ・チェックは自校採点により結果が出ている。結果の数値が子どもの学力のすべてを指し示すものではないが、指針にはなるので、平均に及ばなかった部分については今後分析を行い授業改善につなげていく。

②児童の様子(成長の様子)

鈴西小の子どもたちは、地域の方の強力なバックアップがあり、地域でたくさんの体験をさせていただき、成長させていただいている。1、2年生のさつまいも植えや2年生、3年生の校区探検、4から6年生はサーチ学習で植木組合さんに植木の産業について実際に教えていただくなど、本を読んだりインターネットで調べたりするだけでなく、実際に地域の人の思いについて直に触れることができている。こうした経験を、子どもたちの成長という形でお返ししていきたいと考えている。

③熱中症対策

「しいのみ」8号でもお知らせしたように、今年度から定期的に校内のWBGT値を計測及び掲示し、数値に沿って適切な判断を進めている。今のところ重篤な事故は起きていないが、しばしば「頭が痛い」と保健室に来る児童もいる。数値に沿った行動の指導及び適切な水分補給や休憩等について指導を進め大きな事故がないように取り組んでいる。

④児童の様子（課題）

生徒指導上の課題として、廊下走りは減ってきているが、言葉遣いや自分の思いの伝え方が気になる。言葉遣いとしてはなにか気に入らないことがあると「死ね」「殺す」という言葉が出てしまう子が見られる。

また、友だちに自分の思いが伝わらずトラブルになると、言葉で「やめて」とか「なんで」の前に手が出てしまう事例もしばしばある。トラブルについては、担任が細かに聞き取りを行い、双方が納得し謝りあうことで解決しているが、根本的に思いを言葉で伝える、言葉や表情から相手の気持ちを察するといった指導を継続的に行っていく必要性を感じている。

持ち物について、高学年を中心に少人数だがシャープペンシルを持ってきている児童がいる。鈴西小学校では「かけはし」を発行し学用品チェック欄に筆箱の中身について発信している。全校で確認されている決まりについて、教職員が統一感をもって指導するよう努力していかなければならないと感じていると同時に、保護者や地域の皆様にも指導に御協力いただけるとありがたい。

また、「決まりだから守る」という視点だけでなく、「鉛筆は適切な筆圧で丁寧な文字を書くために必要である」といった指導の意味も子どもたちに伝え、「必要だから決まりになっている」ということも理解させたいうえで守らせていきたい。

⑤ボランティア協議会

6月28日（金）にボランティア協議会を開催した。今年度は保護者から13名、地域の皆様から11名、計24名の方にお越しいただいた。地域からの申し込みがあったことで、特に読み聞かせボランティアが6人集まり、今年度はすべての学年で読み聞かせができるかもしれないので、大変ありがたい。今後、ボランティア活動が軌道に乗るよう地域コーディネーターとも相談しながら進めていきたいと考えている。

《委員の皆様から》

○集団登校で、ばらばらになっている班が目につく。低学年だけ走って先に行ってしまう班や逆の班もある。

⇒気になっている。暑くなってきた、低学年の児童にとっては体力的にも厳しい。送迎される保護者も多く、連絡の行き違いがあったり、来ないと思っていた子が実は後から来たりして、きちんと集まれていないケースもある。

○車で送ってくる人、門から入って池の前で方向転換できるスペースがあまりない。歩いて登校している子が危険ではないか、心配している。親も、仕事前に時間がなくて慌てているのではないか。

⇒一部地区の児童。気を付けて見ていく。

○雨の日は、歩いて登校している児童がいないときもある（地区の児童全員が送迎）。遠い地区は、かなり遠くて大変。

⇒自分の子どもを送る際に他の児童も乗せてくるというのは、地区内の保護者同士で連絡が取れていれば、よい。助かっている面もある。熊の目撃情報があった時は、送迎してくれる方がおられて、助かった。

○鏡池前の送迎車の回転は、危険。事故が起きてからでは遅い。本来であれば歩いて登校するのが基本。

⇒安全確保の方法を考えて、保護者に発信する。

○班長や上級生が、下級生をおいていってしまう姿が見られる。学校ではどのように指導をしているのか。

⇒登校指導に立っているとき、その場での指導を行っている。必要に応じて地区担当者が児童を招集して指導したり、地区別児童会の場で指導したりする等、継続的に指導している。道草して遅れてしまう児童、それを放っておいて先に登校してしまう児童、双方に指導をしている。

○登校は昔からずっと課題になっている。人数が多いときは班長、副班長で前と後

ろではさんで来ることもできていた。

⇒家がまばらに広がっており、歩きながら合流して集まってくる班もある。そもそも歩き始める時点でばらばらになっている。

○集合場所に時計がない地区が多い。忘れ物をして家に取りに帰る子もいたりするし、いつ出発したらいいのか、子どもだけで判断するのが難しい。同じ登校班の保護者同士の LINE で、欠席や送迎の情報は毎日入ってくるが、連絡が入ってきた時点で、すでに家を出ている児童もいるので、うまく伝わらないことがある。ずっと待っていたけれど実は欠席だったり、来ないと思っていた子が実は後から追いかけてきたりする。歩き始めから、そろっていない。

○下大久保の地区では、子ども会から時計の話があって、取り付けた。

○学校だより「しいのみ」が、印刷状態が悪く、読みにくい。写真も真っ黒。写真はわざと特定できないように黒くしているのか。

⇒学校だよりに掲載する写真は、できるだけ個人が特定できないものを使用するようにしているので、メール等で送付するのも可能。保護者にもメール配信することもできる。

○メール配信してもらう方がよい。紙だと親の手元まで届かないことが多い。

○スクールパークの草が気になっている。

○芝刈り機で刈っても、草の根が残ってしまい、またすぐ生えてくる。雨あがりに有志で草ぬき作業をしたい。できる範囲で。学校は遠慮せずに、手伝ってほしいことを発信していくべき。

⇒また、日時については相談したい。

(2) 2学期の行事について [別紙をもとに学校長より説明]

ア 運動会について 10月5日(土)

イ 森のまつりについて 11月29日(金)

ウ 来年度の2学期の行事について

行事日程について、委員の皆様のご理解と承認を得た。

6 情報交換・その他

○ 教育講演会 8/22(木) 13:30 開始 学校でオンライン

○ 人権フォーラムれいほう 12月10日(火)13:45~鈴峰中

○ 中学校区合同学校運営協議会 11月26日(火)15:00~鈴峰中

○ 小中連携の取組

校区夏季教育研修会 8/1(木) 鈴峰中

○ 防災備蓄倉庫について

備蓄倉庫は、実際に倉庫を開けて中にあるものを見ていただいた。

8 教育委員会より(鈴鹿市教育委員会事務局教育支援課 加藤稔明先生)

○登下校における送迎の話が多く出された。事故がないようにしていく必要がある。登校班の並び方、歩き方の改善が見られないのは、気になる。事故が起こってからは遅い。改善されていかない理由を分析し、取り組んでいく必要がある。この学校の校区は広い。広いなら広いなりに、少人数で一緒に来られる子だけにしたり、途中で合流するのも可能としたりする等、手立てが必要。何かあった時

に対応できるためには、グループは最低でも3人は必要。

○送迎については、以前勤務した学校でも、とても多かった。「職員駐車場には停めず、決められた場所で」としていても、何台も指定場所以外のところに入ってくる。学校だよりで毎号のように載せても、守ってもらえない。送迎の多い時間帯にその場に立って、交通整理をしていたこともあった。

せまいところで送迎車を回転させるのは危険。送迎に来られた車にどう動いてもらうのか、保護者に通知する必要がある。

○学校だよりについて、印刷機で増刷すると写真は真っ黒で見にくくなる。製版のモードで文字・写真を切り替えても、写真を見やすくすると文字が見づらく、文字を読みやすくすると写真が見づらくなるので、とても難しい。メール配信を基本にして、メール配信では見られない人は学校に置いてあるのを持って行ってもらえると助かる。

○学校だよりの発行号数が多い。こまめに発信してもらっている。地域に発信していき、協力を得ていきたい。